

センター開設3年目を迎えて

肝臓病は、わが国の国民病のひとつであり、現在も多くの方が、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌などの肝臓病にかかっています。B型あるいはC型肝炎のウイルスに感染している方は、全国で300万人以上と推定されており、北海道内に限っても、毎年1300-1400人の方が肝臓癌で亡くなっています。

これらの肝臓病を克服するために、国では、平成20年から総合的な肝炎対策を新たに立ち上げ、その一環として、各都道府県に肝疾患診療拠点病院を認定することとなりました。北海道大学病院は、平成21年8月に拠点病院の指定を受け、平成22年4月から活動を開始しております。前任者 髭修平先生の後を受け、平成24年4月から中馬が当センターの責務を担当させて頂くことになりました。

肝臓病の診断や治療は、最近、目覚ましい進歩を遂げておりますが、特に、広大な土地に広がる北海道内の市町村においては、診断・治療内容が均等となるよう診療ネットワークを充実させることが重要となっております。北海道のどこに住んでいても、同レベルの診療を受けることができるような連携を構築していくことが望まれます。肝疾患相談センターでは、肝疾患連携拠点病院として、肝疾患相談センターの設置、市民・医療従事者に対する情報提供などを通して、北海道の肝疾患撲滅のために活動を進めていきたいと考えております。

北海道大学病院には、内科・外科・放射線科に、それぞれ肝臓病治療のエキスパートが揃っており、さらに、看護部、薬剤部、検査部、栄養管理部などとも連携をとって肝疾患診療や肝臓病教室の活動を行っております。肝疾患専門医療機関やかかりつけ医の先生も含め、みんなでチームを組んで肝疾患の診療レベル向上を目指していきたいと思っております。

これらの活動が皆様のお役に立ち、肝臓病を克服するための一助となることを切に願っております。

[肝疾患相談センター長 北海道大学病院 消化器内科 中馬 誠]

肝臓病コラム 第2回

ウルソ

～肝臓病でよく使われている
お薬についてお話しします

肝臓病の方にはよく、「ウルソ」というお薬が処方されます。白くてとても小さなお薬で、よく患者さんからは、「飲み忘れしやすく余っていますので、今日は処方しなくてもいいです」と言われることがあります。ウルソは、ウルソデオキシコール酸という、もともと肝臓で作られる胆汁の一成分です。日本で発売されたのは1957年で、歴史は古く、効果も安定しているため長い間使われている薬です。血清AST(GOT)やALT(GPT)を低下させる上で有効と言われており、肝機能障害や慢性肝炎の方はもちろん、厚生省で難病として認定されている原発性胆汁性肝硬変(PBC)の方にも多く使われ、肝機能障害の進行を抑えるために一役も二役もかっています。

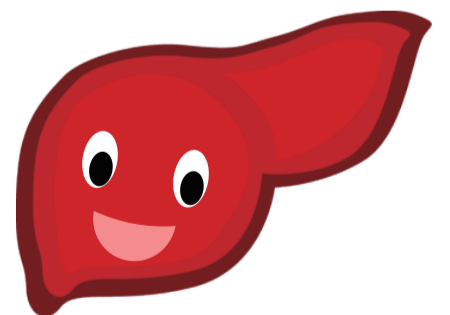
飲み忘れるのはどの時間帯に多いですか？その方の肝機能の状況にもよりますが、お昼に飲み忘れることが多い場合は朝と夜に分けて飲む方法もあるので、工夫して毎日飲み続けることが大切です。副作用は少ない薬と言われていますが、まれに下痢や腹部の症状がでる方がいます。状況によっては中止せざるを得ない方もいますが、整腸剤などを組み合わせで飲んでいく方もいますので、なるべく飲み続けられるように、主治医とよく相談してください。

相談センター活動記

平成23年度には全部で121件の電話相談が寄せられました。

昨年6月に和解が成立したB型肝炎訴訟の手続きに関するご相談は特に多く寄せられましたが、そうした関連の報道などをきっかけに、これまで未受診であったB型肝炎キャリアの方がご自身の状態を気にかけていただくことも増えたようです。

また、前号で取り上げたB型・C型肝炎の新しい治療についてのお問い合わせも多数ありました。今後も、肝臓病教室やセンターニュース、市民・医療従事者向け講座の充実を図り、最新情報の発信に努めていきたいと考えています。



発行 肝疾患相談センター

肝臓病に関するご相談を受け付けています

☎011-706-7788

月～金(病院の休日を除く) 9:00～17:00

*インターネット環境がある方は、ホームページもご覧になれます。北大病院トップページの「お知らせ」からお入りください。